

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県富谷高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒982-3341

宮城県富谷市成田2丁目1-1

E-mail info@tomiya-h.myswan.ne.jp

Website http://www.tomiya-h.myswan.ne.jp/

幼児児童生徒数 男子 335名 女子 486名 合計 821名

幼児・児童・生徒の年齢 16歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

本校は「人文」「国際」「理数」の3コースを有する普通高校であり、学校全体で「国際理解教育」を推進しつつ、コースごとにその特徴を活かしながら重点課題に関してテーマを設け、ESDの推進に努めています。

①学校全体としての取組【国際理解教育】

(ア) 韓国梅香女子情報高校との交流 7月29日(土)

第41回宮城総合文化祭の国際交流事業において韓国から梅香女子情報高等学校の訪問団21名と異文化交流会を実施。

(イ) 国際理解講演会 10月26日(木)

元青年海外協力隊(派遣先：グアテマラ)の河内 智之さん(NPO未来をつかむスタディーズ代表)を招き、国際貢献、貧困や格差に関する問題について考える講演会を実施。

(ウ) One Day English Camp 12月26日(火)

生徒24名が参加。英会話学校から外国人4名を講師に招き、異文化理解に関するワークショップやプレゼンテーションを実施し。

②コースごとの取組：《人文コース》【テーマ：平和・人権】

(ア) ESD 講演会 7月11日(火) 5・6校時「児童労働について」
講師：NPO 法人 ACE より田柳優子氏と杉山綾香氏の2名の講師をお招きし、
内容：コットン製品の背景にある児童労働や、環境問題についてワークショップ。

(イ) 修学旅行 12月2日(土)～5日(火)

方面：広島・関西

内容：25グループに分かれ平和・人権をテーマにした自主研修を実施。

③コースごとの取組：《国際コース》【テーマ：異文化理解】

(ア) ESD 講演会 6月21日(水) 5・6校時「多文化共生のための交流会」

講師：宮城県在住の外国人9名

内容：自国の文化の紹介を中心に生徒と交流

(イ) 修学旅行 12月1日(金)～5日(火)

方面：シンガポールとマレーシア

内容：13グループに分かれ異文化理解をテーマにした自主研修を実施

④コースごとの取組：《理数コース》【テーマ：環境・科学】

(ア) ESD 講演会 6月28日(水) 5・6校時「AIの研究」

講師：東北大学大学院情報科学研究科の乾健太郎教授

内容：「AIの研究とこれからの社会」

(イ) 修学旅行 12月2日(土)～5日(火)

方面：関西

内容：14グループに分かれ異文化理解をテーマにした自主研修を実施

⑤その他の取組

(ア) 修学旅行ポスターセッション：修学旅行の自主研修での学びを発表

(イ) アートマイルプロジェクト：パキスタンの女子高校と協働で壁画を作成

(ウ) ユニクロ主催の『服のチカラ』プロジェクト：子供服の回収

(エ) 小学校の外国語授業サポート交流：富谷市立成田小学校の4年生の英語の授業において本校の生徒13名がALTのサポート役として授業に参加し、ロールプレイングやゲームをとおして交流を実施した。

※チェック事項1-1、2-1に対応



① (ア) 交流の様子



① (イ) 講演の様子



① (ウ) プレゼンの様子



② (ア) ワークショップ



③ (ア) 交流の様子



④ (ア) 講演会の様子



⑤ (ア) プレゼンの様子



⑤ (イ) スカイプでの交流



⑤ (ウ) 子供服の梱包



⑤ (エ) 小学生との交流

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(時間割を調整して時間を確保して実施)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

教材：このTシャツはどこから来るの（NPO 法人 ACE）

Web：世界各国の一週間分の食料とその家族を比較した写真がすごい！

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

活動内容と教育課程の位置づけは有機的に結びついてはいません。ただし、本校の国際コースのみで実施している「異文化理解」では Identity という教科書を使い、価値観の共有の大切さを学びつつ、修学旅行先である国の文化や習慣などについて事前学習を行っています。また、各教科で学ぶ内容に関して SDGs と関連がある教材があった場合は学びを深め、協働学習をとおして解決に向け自己変容を促すような活動を積極的にするよう働きかけをしております。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各クラスから 2 名の国際交流委員を選出し、委員会活動を行っています。活動の内容はおもにユネスコスクールに関する様々な行事や交流会への参加になります。活動に関する啓蒙のためのポスター作成など活動は多岐にわたり、代表として各クラスへユネスコスクールの取組を浸透させる重要な役割を果たしています。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

国際理解部がユネスコスクールの活動を担い、生徒には行事ごとに振り返りのためのアンケートや感想文の提出をさせ、狙った効果が得られているか確認をしています。また、宮城県下の高等学校からなる宮城県国際教育研究会で「ユネスコスクール」の取組について本校の事例発表を行い外部からの評価もいただく機会がありましたがおおむね高い評価をいただいております。ただし、行事ごとに生徒は新しい情報や自己の変容を促すような機会を得ているようですが、どのように変容したかをはかることができていないのが今後の課題となっています。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

さまざまな取組や行事ごとに newsletter を発行し、ホームページに活動内容を掲載するなどして成果を発表しています。主な行事は授業と平行して実施することが多く、すべての職員の目に触れるわけではないので大切な広報手段といえます。また、子供服の回収などを家庭に呼びかけることができ、活動の活性化に繋がっています。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

宮城大学で行っているアカデミックインターンシップという高大連携事業に参加しています。また、探究型学習の支援として宮城大学から講師として先生をお招きし、課題研究におけるテーマ設定や研究手法について講義をしていただいています。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

ジャパンアートマイルプロジェクトのパートナー校として海外のユネスコスクールとの交流が可能ですが、必ずしも実現するとは限りません。また、国内ではユネスコスクールに加盟申請中である近隣の富谷市立成田小学校で高校生と小学生の交流会が実現しました。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクール加盟に伴い、これまで国際理解や異文化理解が中心だった取組から人文系や理数系などにも対象を広げることができ、行事も軌道に乗り、校務分掌の名称が国際理解部からユネスコ部へと変更になります。本校の特徴としてユネスコスクールであることを前面に打ち出す方針となり、学校全体で SDGs に取り組む流れができました。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

現在、富谷市内にはユネスコスクール加盟申請中の学校がいくつかあり、早ければ、市内すべての公立学校がユネスコスクールに加盟することになります。富谷高校は市内唯一の高等学校でも有り、ESD の拠点校として今後、より積極的な学校間交流や地域との交流を目指したいと思っています。そのさきがけとして小学校との交流を実施しましたが、より持続性を持たせるために小学校の担当者と今後の交流について情報交換をすることができました。お互いの活動内容を共有することにより活発な学校間交流の手がかりを得る貴重な機会となりました。今後は、より多くの学校と情報を共有する機会を設け、地域の ESD の拠点にふさわしい学校となるように校内でも体制を整えたいと思います。平成 30 年度は ESD に関する教員への研修や SDGs を道具として ESD を推進するための探究型学習の充実のための提案をし、平成 31 年度での総合的な学習での実施を目指す予定です。